

## II. 事務事業評価の今後の方向性について

### (市からの提示内容)

#### 現状

- 自己評価（所属課長評価）の「縮小」「廃止」の推移（「縮小」「廃止」の計）→「H18;5%」「H19;7%」「H20;4%」と少ないながらもスクラップ化は継続されている。
- H20年度自己評価においてシートの「空欄」がある→H19年度の市民評価「縮小」「廃止」「拡大」に対して自己評価がなされていない所がある。
- 事務事業シートの入力に職員が携わった時間  
H18年度…約 120分（1事業あたり）現状と課題、事業概要等、初期の入力に時間がかかりました。  
H19年度…約 60分（1事業あたり）内容の見直しや数値の更新作業により入力時間が減りました。  
H20年度…約 60分（1事業あたり）3回目という事もあり多少慣れてきた感があったが少し項目を増やしたため入力時間は変わりませんでした。
- 事務事業シート入力開始から完成までの日数  
H18年度…H18年度5月から約1ヶ月  
H19年度…H19年度5月から約1ヶ月  
H20年度…H20年度6月から約2か月  
(事務事業総合情報システムの改善が進まず、出だしからつまづきました。また各課においてもなかなか入力が完了されませんでした。)

#### 課題

自己評価結果や内容から、行革に対する姿勢が有る所属長、無い所属長がいる事が見て取れます。有る所属長は継続してスクラップに向けた努力の姿勢が表れています。ただし3回目と言うこともあり、スクラップ数においてほぼ限界に来ています。無い所属長については、行革に向けての気が無い、もしくは行政評価そのものについて必要性を感じていない、余計な仕事という意識を感じ取れます。予算の削減金額としてはH18年度評価▲1億8,500万円（実績）ありましたが、H19年度評価では▲6,400万円（実績）、H20年度は行政改革推進課による内部評価の段階で「廃止等」にかかる事業費が▲1,000万円であり、業務量全体に比べそれほど削減効果は出ていない状況です。

#### 今後の取組

《平成21年度 事務事業評価のあり方》  
〔方向性〕

これまでの行政評価は、評価シートを作ることが仕事になっていた！  
評価は、評価担当者の自己満足！



次年度予算に反映できる、実行性のある評価を行う！

#### 〔考え方〕

- 事務事業の全体評価は、5年ごとに行う。
  - 評価システムにおける入力作業をなくす。(ただし、廃止、新規事業の登録作業は行う。)
  - 評価は、特定な事業を抽出。(財務と行革から抽出した「これまでの評価で問題がある事業」)
  - さらに担当部において優先順位が低い事業を抽出。(既に目的が達成されている事業や効果が期待できない事業)
  - 上記の3と4に集中して評価を実施。
  - 「今から予算」として、4月から着手。
  - 行政改革のロードマップに評価事業を落とし込み徹底する。
- ※これまでの評価シートのデータを活用し、必要性和成果について十分議論し、方向性を決定する。

(市民による行政改革委員会の意見)

## 提言

確かにもはや全事業行う必要はなくなりました。世の中の変化に合わせて、臨機応変に対応し、実効性のある評価を行って下さい。

### 意見一覧

- 事務局の考え方は間違っていないと思います。このまま進めて下さい。
- 行政改革推進課の今後の考え方は非常に良いと思います。安心しました。
- 全事業やる必要はありません。事務量が膨大です。
- 縮小や廃止の対象がなくなっていくのは当然です。シートはもっと簡便にして下さい。
- 意識の植え付けにはなったと思います。手段が目的になってはいけません。
- 市民の目からの評価ではあったが、これからは職員が実効性のある評価を行って下さい。
- 世の中どんどん変わっていきます。評価委員が出した判断だからと言っても臨機応変に対応して行って下さい。
- 何年か前の計画や事業を今後もやっていかなければならないとは限りません。
- 市の行った事業を評価し改善を図っていくことは必要不可欠ではありますが、そのための作業が膨大となるのは、費用対効果から見て無駄が多いです。評価することで効果が出る事業を選択して実施すべきです。選択の基準は上記〔考え方〕3. 4. で良いと思います。